



栽培物とのかかわり

刈谷市立双葉保育園（愛知県刈谷市）

[2 歳児]

【ねらい】 フウセンカズラの実がなったことに気づき、触れてみる。

子どもの行動・言葉	子どもの思い	保育者の行動・言葉	保育者の思い
<p>保育者と一緒に水やりをした後、フウセンカズラの実に気づき「これ、なあに？」と聞く。</p> 	<p>何だろう？ 何か付いているみたい。</p>	<p>「これはね、『フウセンカズラ』って言うんだよ」</p>	<p>よく気付いたな。 名前を教えてあげよう。</p>
<p>「フウセン？」</p>	<p>『フウセン』なの？</p>	<p>「そう、風船みたいでしょ。 『フウセンカズラ』だよ」</p>	<p>風船に似てるって思ったのかな。</p>
<p>「フウセンカズラ？」と言いながら触っている。</p>	<p>ふわふわするな。</p>	<p>「うん、そうだよ。触ったらふわふわしていて気持ちがいいね」</p>	<p>触っている。 どんな感触を感じているんだろう。</p>
<p>「うん」と言ってしばらくいろいろフウセンカズラを触ってつぶしたりしている</p>	<p>『プシュウー』って割れたりして面白いな。 いっぱい触ろう。</p>	<p>「ぎゅって握ると、割れちゃうんだね」</p> 	<p>いろいろな感触を楽しんでいるんだろう。</p>

【考 察】

水やりを一緒にすることで、2歳児なりに植物の変化に気付いている。今回は、フウセンカズラの実が大分ふくらんできたのに気づき、「何だろう？」と疑問をもっていた。保育者から『フウセンカズラ』だと聞いたが、聞き覚えのある“風船”と聞こえ、より興味をもったようである。観るだけでなく触れてみることで、ふわふわする感触や強く握ると割れてしまうことなど、いろいろな発見があったようである。保育者が子どもの発見した喜びやつぶやきを受け止めることで、子どもは興味をもったり発見したりすることができたと思われる。

みどころ

日頃から保育者がていねいに言葉をかけながら、栽培物とかかわっていることが感じられます。低年齢児では、身近にどのような自然環境が用意されているかによって、子どもたちの新鮮な気づきや感動、疑問を引き出すことが出来ます。この事例のように、2歳児にも変化や特徴が捉えられる植物や、触れて楽しめる植物とのかかわりを工夫することは、0歳からの「科学する心」をどのように支えたらよいかのヒントになると思われる。